

農学部

Faculty of Agriculture

地球は愛と農学で回っている。

環境問題、資源・エネルギー、生命、食料…。

私たちが直面している問題は、どれも農学が深く関わっている。

この美しい星を守るために、人類の未来と幸福を支えるために、

宮崎の恵まれた自然環境の中で、農学と真剣に向き合える。



農学部長

酒井正博

農学部は、グローバルな植物生産の知識と開発力・指導力を身に付けた人材を育成する植物生産環境科学科、森林がもたらす環境の保全と資源の利活用を学ぶ森林緑地環境科学科、21世紀の生命・食料・環境問題解決を目指す応用生物科学科、柔軟な視点で海の生物や環境の未来を考える人材を育成する海洋生物環境学科、家畜・飼料生産と草地の両視点から学ぶ畜産草地科学科および最先端の教育研究環境で高い実践力を身に付けた獣医師を育成する獣医科学科の6つの学科より構成されており、農学の全ての教育研究分野を網羅しています。キャンパス内の広大な農場、西日本最大級の牧場、杉や独特の照葉樹からなる演習林、水産実験所、動物病院があり、実習などの実践的な教育を行っています。さらに、国立大学では極めて珍しい農業博物館があり、農業に関する数多くの資料を展示しています。

このような恵まれた環境の中で、日本が世界に誇る農学分野の最先端研究を自ら探究し、世界に向けて成果を発信するとともに、成長産業である農林水産業に貢献する人材として育つことを期待しています。

■農学部 各学科

植物生産環境科学科

地球に優しく安全・安心な食料生産を目指す
食の安全・安心を追求し、グローバルな植物生産の知識と開発力・指導力を有する人材を育てる。

P43

森林緑地環境科学科

みどりの恩恵を科学する
自然環境保全と安全で快適な生活環境の形成、森林緑地の恩恵(機能)の解明に基づき、資源の利活用技術を確立。

P45

応用生物科学科

化学をツールに「生命・食料・環境」を科学する
地球規模で人類が直面すると予測される生命・食料・環境問題に応えるための人材を育てる。

P47

海洋生物環境学科

微生物から海獣まで、分子から環境まで
太陽系で唯一、水に恵まれた地球。その海の生物や環境の未来を、柔軟な視点で考える。

P49

畜産草地科学科

家畜と草地の両視点から「考える」教育
畜産の知識を生かし、飼料の自給率向上をはかりながら、飼料資源をリサイクルする科学を確立する。

P51

獣医科学科

最先端の教育・研究環境で高い実践力を習得
専門科目ごとに設置されている11講座と附属動物病院が、他学科と協力しながら、獣医学を实践。

P53

教育理念

農学部は、食料、環境、資源及び生命に関する基礎知識の理解をもとに、広い視野で物事を考える総合的判断力や問題解決能力を涵養しつつ、社会の要請に応えるための農学に関する高度な専門性と技術を修得させ、それらに関する問題解決を通じて地域と国際社会に貢献できる人材を育成することを理念とする。

教育目標

- 幅広い教養と食料、環境、資源及び生命に関する基礎知識に加え、農学分野における高度な知識及び技術を用いて社会のさまざまな課題を探索し解決できる能力を養成する。
- フィールドにおける実践教育を推進し、農学分野において、地域と国際社会に貢献できる人材を育成する。
- 専門技術者としての倫理観、情報収集能力、文章表現能力、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を高める教育を行う。

アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

農学部では、その教育理念にもとづいた教育目標を達成するために、「知識・理解」、「思考力」、「表現力」、「主体性」、「協調性」、「学問への関心」を有する人材を求めています。このために、一般、推薦、帰国子女、社会人、留学生、編入学といった多様な入試を実施し、それぞれの入試においては、客観的で透明性のある方法によって入学者を公平に選抜します。

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与に関する方針)

農学部では、宮崎大学学部規則に規定する修業年限以上在学し、各学科所定の単位数を修得し、以下の素養を身に付けた学生に対して卒業を認定し、学士(農学)の学位を与える。

- 人間性・社会性・国際性:社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。
- 主体的に学ぶ力:自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。
- コミュニケーション能力:相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
- 課題発見・解決力:課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。
- 知識・技能:学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能(実践力)を活用できる。

全学科に共通する知識・技能

- 文化、社会、自然、地域の理解:人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
- 農学に関する基礎知識:農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。

植物生産環境科学科

- 植物生産に関する基礎的・応用的知識:植物生産に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
- 生産環境に関する基礎的・応用的知識:生産環境に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
- 環境調和型農業に関する基礎的・応用的知識:環境調和型農業に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
- 植物生産と生産環境に関する国際的視点、社会貢献力及び指導力:植物生産と生産環境に関する国際的視点、社会貢献力及び指導力を有し、社会で活用できる。

森林緑地環境科学科

- 森林・緑地の機能に関する基礎的・応用的知識と国際的視点や課題解決能力:森林・緑地の機能に関する広い知識を修得し、国内外の諸課題に対応できる。
- 自然環境や国土保全、水資源利用に関する基礎的・応用的知識:自然環境や国土の保全、水資源の安定的な利用など、安全で持続可能な国土づくりに寄与できる。
- 樹木・菌類、非生物材料の特性に関する基礎的・応用的知識:樹木・菌類、非生物材料等の特性を深く理解し、適切に活用することができる。
- 多機能型森林緑地管理に関する基礎的・応用的知識と計画・実行力:自然環境と生物資源利用の調和を旨とした森林緑地管理を計画・実行できる。
- 環境と調和した材料の開発力と緑化の実践力:環境と調和した材料の開発や緑化を実践できる。

応用生物科学科

- 数学及び自然科学に関する基礎知識:数学及び化学、生物などの自然科学について理解し、応用できる。
- 応用生物学に関する知識:応用生物化学・微生物機能開発学・植物機能科学・食品製造学・食品栄養化学の5分野に関する基礎及び専門知識を理解し、それを問題解決に応用できる。
- 技術者の社会的責任に関する理解:応用生物学の知識・技術が社会に及ぼす影響を認識し、技術者として必要な責任ある判断と行動について考えることができる。
- 制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる力:応用生物学に関する課題解決のための筋道をデザインし、自立して仕事を計画的に進め、期限内に終わることができる。

海洋生物環境科学科

- 水圏(生物と環境)に関する専門的基礎知識と専門的知識の応用力:水圏(生物と環境)に関する専門的基礎知識を有し、その知識を社会で応用できる。
- 環境と食糧生産の諸問題に関する分析力:環境と食糧生産の諸問題を、データを基に分析できる。
- 環境と食糧生産の諸問題の解決に貢献する能力:分析した環境と食糧生産の諸問題を、解決に導くための貢献ができる。
- 専門分野における地域社会や国際社会で活躍できる能力:専門分野における地域社会や国際社会で、他と協力し活躍できる。

畜産草地科学科

- 草地・飼料の基礎的・応用的知識・技能:草地・飼料に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
- 家畜の基礎的・応用的知識・技能:家畜に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
- 資源・環境の基礎的・応用的知識・技能:資源・環境に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
- 食料・畜産業・農村の基礎的・応用的知識・技能:食料・畜産業・農村に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
- 専門分野に関する国際性と課題解決能力:専門分野に関する国際性と課題解決能力を有し、社会で活用できる。

獣医科学科

- 獣医専門知識:獣医師としての専門知識を有し、社会で活躍できる。
- 獣医的倫理観:獣医師としての正しい倫理観を有し、社会で活躍できる。
- 獣医的応用・実践・開拓力:獣医専門知識を生かして、応用・実践・開拓ができる。
- 地域・国際社会への貢献能力:獣医専門知識を生かして、地域や国際社会へ貢献できる。

施設紹介



木花フィールド(農場)



田野フィールド(演習林)



住吉フィールド(牧場)



延岡フィールド(水産実験所)



附属動物病院



附属農業博物館

植物生産環境科学科

Department of Agricultural and Environmental Sciences

地球の生態系・自然環境と農業生産との調和を図るための環境保全型農業に関する教育と研究を推進しています。また、安全で高品質な農産物を効率よく生産するための基礎知識や栽培技術を身に付けるためのカリキュラムと、植物生産と生産環境に関連した専門知識を国際的視野から深く学ぶためのカリキュラムを提供し、地域・世界の農業に貢献できる人材の養成を目指しています。

農業県で農業の勉強をしながら、
趣味の野球観戦もできる。

植物生産環境科学科 3年

森田大介 Daisuke Morita

高知県 土佐塾高校出身

野球が好きなのもあって九州で農業の勉強をしたいと思っていました。宮崎は、地元高知と気候が似ており、ピーマンやかんきつ類など同じような特産物もあれば、マンゴーのようにまったく違うものもあります。本学科で、宮崎だから学べる農業の良い所を吸収したいです。一番の魅力は、大学のキャンパス内に農場があるため、実際に作物を作り、肌で感じられる所です。親身に指導してくれる教授陣が揃っており、授業では教科書には載っていない、作物を栽培する上でのアドバイスや、問題への対処法など、現場目線の話も聞けて、将来にも役立てそうです。個人的に地元の農家をお願いして、ペンキ塗りなど収穫以外の農業体験をさせてもらう貴重な経験もでき、充実した日々を過ごしています。

Admission Policy 入学者受入方針 - 求める学生像 -

アドミッション・ポリシー

植物生産環境科学科では、農学に関する基礎知識、植物生産、生産環境、並びに環境調和型農業に関する基礎的・応用的知識、専門分野に関する国際的視点、社会貢献力及び指導力を身に付けた人材の育成を目標としています。

- 安全・高品質な農・園芸作物の安定供給に対して熱意を持って取り組み、自然現象に対する強い知的好奇心と自然環境に配慮した農業生産に対する関心を有する人
- 実験や観察において深く考察し、その結果を表現する力、大学での学修の基盤となる幅広い知識や理科の基礎的学力を有する人
- 学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を地域・社会に還元することができ、国際的な視野と責任感を有する人

Message



花の魅力科学する～原始種子植物から主要な花き類まで～

植物生産環境科学科 准教授 稲葉 靖子
Yasuko Inaba

植物生産環境科学科は、環境と調和した持続的な農業生産に関する教育と研究を推進しています。本学科で扱う主要な園芸植物(果実、野菜、作物、花など)の中で、私は「花」の教育・研究を担当しています。花より団子の方も多ですが、現代のストレス社会において、「花」の果たす役割は大きく、日本で生産される高品質の花きは、海外でも高い評価を受けています。私の研究室(花き生理学)では、こうした美しい「花」の花持ちを良くするために、特に、宮崎で生産される主要な切り花を用いた研究を行っています。加えて、面白い「花」の研究も行っており、一部の原始種子植物の花が発熱する仕組みについても研究をしています。学生の皆さんが、本学に来て良かった、本学科を選んで良かったと思えるよう、教員の一員として努力をしていきたいです。



『グローバルアグリ体験講座』で海外の農業を学ぶ!

本学科の目玉実習「グローバルアグリ体験講座」では、タイの大学や企業での授業・実習を通して海外の農業を勉強することができます。本体験講座を受講すると、タイに約一週間行って勉強・実習することになります。現地では、カセサート大学と本学科教員による英語講義や企業、政府機関の見学などを行います。また、タイの大学生との交流や文化遺産の見学など、国際的な視野を持つために不可欠なプログラムも組み込まれています。これまでに、本学科の学生60名を派遣してきました。この講座を受講した学生の多くが「海外で勉強して、自分の価値観が変わった」

という感想を持っており、海外の農業に関する知識の習得だけでなく人間的にも大きく成長して帰って来ます。



■卒業後の主な進路

公務員、教員、試験研究機関、農業団体、醸造業、種苗会社、農業法人、食品製造加工業、食品流通業、外食産業、農薬医薬産業、緑化産業、肥料会社、天敵関連企業、農業機械関連産業、農産施設関連産業、国際協力機構(JICA)、金融業、マスコミ、自営(就農)、大学院進学 他

■取得可能な免許、資格

- 高等学校教諭一種普通免許状(農業、理科)^{※1}
- 学芸員^{※2}
- 食品衛生管理者^{※3} ●食品衛生監視員^{※3}
- 普及指導員^{※4}
- 自然再生士補^{※5}
- JGAP指導員^{※6}

※1 別に定める教育職員免許法の科目の所要単位を修得し、各都道府県の教育委員会に申請する必要があります。

※2 所定の単位を修得し、申請すると、「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。

※3 卒業までに所定の単位を修得する必要があります。卒業後の勤務先で資格取得が必要となった場合に手続きを行います。資格取得に必要な関連の授業を受けることができるので受験に有利になります。なお、資格試験を受験するには大学卒業後4年以上の実務経験が必要です。

※4 所定の科目の単位を修得し、関係機関に申請すると、資格を得ることができます。

※6 資格取得に関連する授業を受けることができるので、資格取得に有利になります。在学中に受験し、資格を得ることができます。

森林緑地環境科学科

Department of Forest and Environmental Sciences

私たちの身近に存在する森林・緑地は、人類がこの地球上で生き続けるために必要な資源を生産する場であるとともに、快適で安全な生活を過ごすための環境を守るうえで欠くことのできない存在です。本学科では森林や農山村・都市・海岸域を含めた緑地の機能を探求し、持続的な農林業、豊かな自然環境、そして快適な生活環境との調和を目指した教育研究を行います。

林業先進地の宮崎で森や林のことを勉強し環境問題解決に生かしたい。

森林緑地環境科学科 4年

佐竹 嶮 Ryo Satake

宮城県 宮城野高等学校出身

高校時代に自分の興味があることを研究できる時間があり、砂漠の緑化について調べました。そこで、1秒間にブルー4つ分の森が失われていることが分かり、危機感を覚えました。そこで、林業先進地でもある宮崎にある本学科を知り、森や林のことを学びたいと思いました。本学科は、森林の経済や化学、生態学、保護など幅広い分野から学べるのがすごいところ。各種資格も取得でき、将来仕事をやる上でも、強みになると思いました。

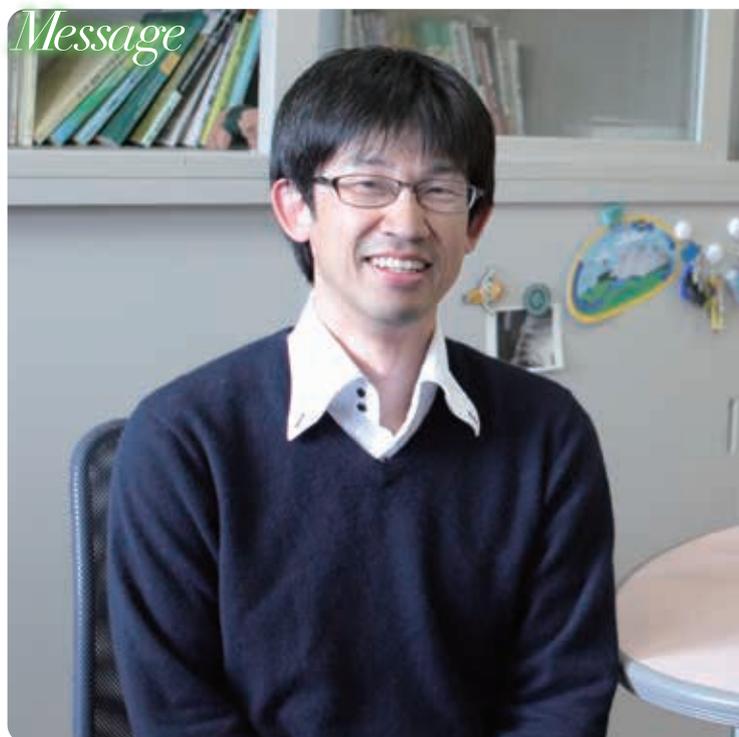
今は、桜の開花について、いかに早く正確に知ることができるかを研究しています。お花見は経済も動くし、日本人の文化にも触れられることもあり、楽しんで研究しています。研究フィールドが近い本学で、自分の興味を広げ楽しみながら存分に学んでいます。

Admission Policy 入学者受入方針 -求める学生像-

アドミッション・ポリシー

森林緑地環境科学科では、森林・緑地の機能に関する基礎的・応用的知識と国際的視点や課題解決能力、自然環境や国土保全及び水資源利用に関する基礎的・応用的知識、樹木・菌類及び非生物材料の特性に関する基礎的・応用的知識、多機能型森林緑地管理に関する基礎的・応用的知識と計画・実行力、環境と調和した材料の開発力と緑化の実践力を身に付けた人材の育成を目標としています。

- 森林・緑地の環境保全と生態系の修復、森林資源や水資源の循環的・安定的利用に対して熱意を持って取り組み、森林・緑地に関連する自然科学と社会現象に幅広い興味や関心を有し、実験や観察において深く考察し、その結果を表現する力、大学での学修の基盤となる幅広い知識や理科に関する基礎学力を有する人
- 学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会の一員として地域・世界に還元する情熱と責任感を持つ人材



Message

みどりと共にこれからも生きていく。

森林緑地環境科学科 准教授 篠原慶規
Yoshinori Shinohara

森林緑地という名前を聞くと、植物を学ぶという印象が強いかもしれませんが、確かに私たちの学科では、広大な演習林や宮崎の豊かな森林をフィールドにした森林生態系の解明に力を入れています。一方、見落とされがちですが、森林や草地に生息する動物や昆虫も研究対象です。また、木材から、防災や水資源まで、みどりが生み出す恩恵を自然科学・社会科学の両面から幅広く学ぶこともできます。私自身は、ドローンなどの最新技術も用いつつ、緑を活かした防災について研究を行なっています。私たちの学科では、数多くの実習や実験が用意されており、教員と学生の距離が近いのも特徴の一つです。私たちが持続可能な生活を送っていくために、まだまだ解明しなくてはいけない森林緑地の機能はたくさんあります。皆さんと共に学び、新しい発見ができることを楽しみにしています。

KOKOCHU
ココに
注目!

「就職力の高さの秘訣は “学科の充実したサポート体制”にあり」

森林緑地環境科学科では、公務員・民間企業問わず、就職支援に力を入れています。2018年度も、林野庁・各県の林業職・農業土木職を中心に15名が公務員試験に合格しました。森林林業や木材、農業土木・防災に関連する民間企業にも多数就職が決まっています。

本学科のカリキュラムは、林業、農業土木分野いずれの専門試験にも対応しているのが特徴であり、学科の講義を学べば自然と専門知識が身に付き、公務員や関連企業の就職に繋がるので、短期間の試験対策でも十分に合格が可能になります。加えて3年生になると配属先の研究室の教員が親身になって相談に応じるので早期に就職先を意識するようになり、早めの就職対策に取り掛

かることができます。さらに4年生による公務員合格者報告会や卒業生である現役公務員による説明会、鹿児島大学と合同で開催する「林業・木材産業就職説明会」などの様々なサポート体制が、本学科の就職力の秘訣になっています。



■ 卒業後の主な進路

公務員(農水省、林野庁、県、市町村など)、教員、林業、木材産業、農林業関連団体(森林組合系、土地改良事業団、JA系など)、環境・緑化・農業土木関連企業(建設コンサルタント、造園・建設会社)、大学院進学、その他

■ 取得可能な免許、資格

- 高等学校教諭一種普通免許状(農業、理科)^{※1}
- 学芸員^{※2}
- 普及指導員^{※3} ● 林業普及指導員^{※3}
- 自然再生士補^{※4} ● 樹木医補^{※4} ● 測量士補^{※4}
- 森林情報士2級^{※5}

- ※1 別に定める教育職員免許法の科目の所要単位を修得し、各都道府県の教育委員会に申請する必要があります。
- ※2 所定の単位を修得し、申請すると、「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。
- ※3 資格取得に必要な関連の授業を受けることができるので受験に有利になります。なお、資格試験を受験するには大学卒業後4年以上の実務経験が必要です。
- ※4 所定の科目の単位を修得し、関係機関に申請すると、資格を得ることができます。
- ※5 所定の科目の単位を修得し、別途条件を満たして関係機関に申請すると、資格を得ることができます。

応用生物科学科

Department of Biochemistry and Applied Biosciences

バイオサイエンス分野の最先端技術を用いた生物の機能解明と活用、食品の機能と利用法及び安全性について探求しています。その研究対象は動物、植物、微生物、これらを活用した食品ならびにそれらを育む土壌・生態系にまで及び、最先端のバイオテクノロジーを駆使した研究を通じて、生命・食料・環境に関する幅広い知識を学ぶことができます。



研究室に入る前に、いろいろな分野の実験を経験できるのが良い。

応用生物科学科 3年

七田実咲 Misaki Shichida

長崎県 長崎南高校出身

高校生の時からバイオや遺伝子などを研究したいと思っていました。本学科は、幅広い研究をしているため、学びながら自分のやりたいことや適性が見つけられると思いました。実験が好きなんです、1年生の後期から植物や動物の観察や生物実験などが始まり、研究室配属までいろいろな分野の実験を経験できます。また、農業サークルで活動していますが、大学近くの農家から農地を借り、自分たちで土づくりから始めて野菜を育てます。田植えも経験できるのは、本学だからこそ。

クラスの人数が少ないため、学科や先生とのつながりが深く、研究室に入る前から教授陣の人柄に触れる機会も多いです。本学ならではのいろいろな楽しみで充実した日々です。

Admission Policy 入学者受入方針 -求める学生像-

アドミッション・ポリシー

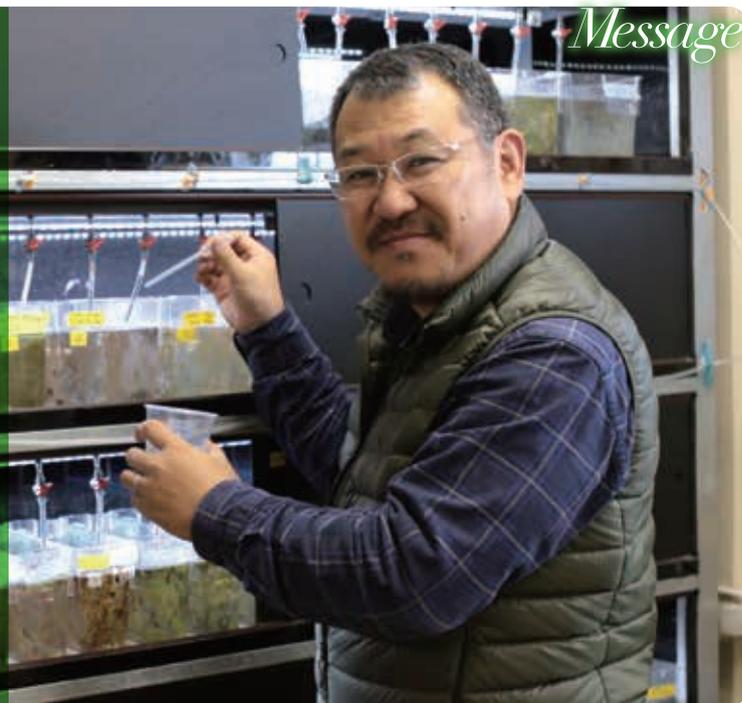
応用生物科学科では、農学に関する基礎知識、数学及び自然科学に関する基礎知識、応用生物科学に関する知識、技術者の社会的責任、制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる力を身に付けた人材の育成を目標としています。

- バイオサイエンス分野の先端技術の獲得、食品機能の探求や環境保全に対して熱意を持って取り組み、動植物や微生物の機能や利用に対する深い関心を有し、実験結果や観察内容を深く考察し、その結果を表現する力、大学での学修の基盤となる化学や生物、英語に関する学力を有する人
- 学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を応用生物科学分野の技術者として社会に還元することのできる人材

応生って、色んな研究分野があって楽しい。

応用生物科学科 准教授 引間 順一
Junichi Hikima

私の個人的な考えですが、応用生物科学科は「先端バイオテクノロジー技術を駆使して、人の生活を豊かにするための研究を行っている学科」だと思っています。研究分野はとてバラエティーに富んでおり、農産物、畜産物そして水産物の食品そのものの価値や、良質な食品を作り出すための重要性、さらに、食品廃棄物の再利用に関する研究など、様々な着眼点から未来志向型の面白い研究をしています。私の研究は、小型魚モデルであるメダカを使って病原細菌の感染に対する免疫のしくみについて研究しています。この研究は、養殖場で多発している魚病の問題解決だけでなく、免疫システムの基礎的知見を得ることを目的としており、未知の発見に感動しながら科学を楽しんでいます。応用生物科学科では、諸君たち自らが、バラエティーに富んだ科学分野の中から興味を持てる科学の扉を開いて、新たな発見に感動してくれることを期待しています！



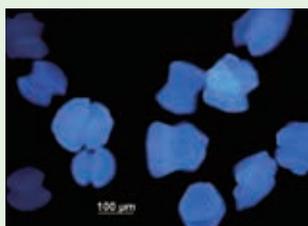
Message



応生発！最先端研究の紹介

世界初！好熱性細菌のバイオミネラリゼーション

高温にて有機性廃棄物を酸に変換する微生物を探していたところ、細胞外に美しい形をした結晶を形成する細菌が偶然見つかりました。この細菌は60℃で活発になり、ギ酸とカルシウムのみからカルサイトと呼ばれる無機結晶を作ります。生物が鉱物を形成することをバイオミネラリゼーションといいますが、この細菌はなんのためにそのようなことをしているのか明らかにしようとしています。地球深部の高温下では微生物起原の石灰岩が作られているのかもしれないですね。またこのカルサイトには蛍光特性があるので希土類を使わない蛍光体としての応用が期待されています。



カルサイトが蛍光を発する様子

根粒菌の力をダイズ生産へ応用する！

作物生産のための窒素肥料は欠かせないものですが、マメ科植物と根粒菌は大気窒素を利用して生育することができます。共生窒素固定として有名なこの生物機能を農業生産に応用するために、ダイズの形質と共生窒素固定細菌の分子生態研究を行っています。近年、ダイズと根粒菌の親和性を支配する宿主遺伝子や根粒菌の地理的分布が明らかとなってきました。これらの研究を通じて生物の生態機能をダイズ生産へ応用できるようになりつつあります。



緑色の部分が根粒菌

根粒菌がダイズに感染する様子

卒業後の主な進路

食品製造業、流通業、醸造業、医療・製薬関連企業、化学工業、環境化学関連企業、農業関連団体、公務員、教員、大学院進学 他

取得可能な免許、資格

- 高等学校教諭一種普通免許状(農業、理科)^{※1}
- 学芸員^{※2}
- 食品衛生監視員^{※3}
- 食品衛生管理者^{※3}
- 普及指導員^{※4}
- 毒物劇物取扱責任者^{※5}

※1 別に定める教育職員免許法の所要単位を修得し、各都道府県の教育委員会に申請する必要があります。

※2 所定の単位を修得し、申請すると、「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。

※3 卒業までに所定の単位を修得する必要があります。卒業後の勤務先で資格取得が必要となった場合に手続きを行います。資格取得に必要な関連の授業を受けることができるので、受験に有利になります。なお、資格試験を受験するには大学卒業後4年以上の実務経験が必要です。

※4 卒業後、勤務先の毒物劇物を取り扱う製造所、営業所または店舗で必要とされる場合に、この資格をもつことができます(受験等の必要はありません)。

海洋生物環境学科

Department of Marine Biology and Environmental Sciences

宇宙の中で地球を他の惑星から分けた出来事は海の誕生でした。海洋は地球環境の恒常性を担い、生物・非生物の未利用資源に満ちています。海洋を含む水圏環境について深く学び、その生物の多様性と利活用を理解・修得することによって、広く人類の未来について思索し、地域ばかりでなく、国際社会に貢献できる人材育成を目指します。

干潟や深海などあらゆる海の生き物を見て研究したい。

海洋生物環境学科 4年

早見 祐紀 Yuki Hayami

兵庫県 明石北高校出身

あらゆる海の生き物を研究してみたいと思ったので、深海から干潟、河口までいろいろな海の環境を学ぶことができる本学科を志望しました。特に、水産・養殖に重点を置いているため、私たちの生活と海の関わりについて、リアリティを持って学べます。研究室に入って魚を飼育してみると、魚それぞれに性質があつて、自然界での姿とはこんなところが違うということ、教科書からではなく実体験として確認できます。例えばマダイは人に慣れてくると、人影を見てすぐにエサをねだるように水面を飛び跳ねるようになります。そんな飼育方をした魚を自然界に放流すると、簡単に捕まる魚になってしまいます。人間が飼うリスクも考えさせられて面白いです。

Admission Policy 入学者受入方針 -求める学生像-

アドミッション・ポリシー

海洋生物環境学科では、農学に関する基礎知識、水圏に関する専門的基礎知識と専門的知識を応用できる能力、環境と食糧生産の諸問題に関する分析力、環境と食糧生産の諸問題の解決に貢献する力、地域社会や国際社会で活躍できる能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

- 海洋生物や水圏環境の保全、水域生物の生産・利活用、水族の生理機能に深い興味を有し、海洋環境と生物生産の諸問題の解決に熱意をもって取り組み、実験や観察において深く考察し、その結果を表現する力、大学での学修の基盤となる幅広い知識や自然科学に関する基礎学力を有する人
- 学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会の一員として地域・世界に還元することのできる人材

生物多様性の源泉を解き明かし、美しい海を次世代へ。

海洋生物環境学科 准教授 安田仁奈
Nina Yasuda

宮崎大学では日本国内でも数少ない「海洋生物環境」について学ぶことができます。私たちの研究室では、生物多様性の宝庫であるサンゴ礁生態系の生き物たちを対象に、生物がどのように多様化し、集団を維持しているのかについて遺伝解析や現地調査、室内実験などで解き明かしています。同時に、海洋生物の生態を調べることで、次世代に美しい海を残していくために必要な、海洋保護区と呼ばれる保全海域をどこにどのように選定すれば良いかの科学的知見を与えるための研究なども行っています。自然の神秘のひとつである種分化の謎に迫ると同時に、人と自然が今後どのように共生していくのかについて、次世代を担う学生さんたちと共に、楽しく深く研究し続けたいと思っています。



Message

KOKOCHU
ココに
注目!

プラスチック その正体は“ミドリムシ”!

水たまりや水田でよく見られる0.1mm以下の単細胞生物ミドリムシ。本学科の林雅弘先生と産業技術総合研究所が共同研究を行い、この度、ミドリムシを主な原料としたバイオプラスチックの開発に成功しました。このプラスチックは、ミドリムシが体内で作り出した物質に、カシューナッツの殻から取り出した成分を加えて合成されたもので、成分の約70%が植物性のためにこれまでのプラスチックより製造の際に排出される二酸化炭素が削減できるとされています。また、素材としての性質

も、加工性がこれまでのプラスチックと同レベル、耐熱性はこれまでのもの以上とのことです。実用化にはまだ課題があるようですが、この環境に優しいバイオプラスチックが近い将来、身の回りで普通に使用されるようになることを期待しています。



卒業後の主な進路

水産物・食品・飼料製造流通関連企業、漁運・漁協等団体、船舶会社、医薬品関連企業、水族館・博物館・海洋観光産業、公務員、教員、環境アセス・コンサルタント、試験・研究所、大学院進学 他

取得可能な免許、資格

- 高等学校教諭一種普通免許状(水産、理科)^{※1}
- 学芸員^{※2}
- 食品衛生監視員^{※3} ● 食品衛生管理者^{※3}
- 普及指導員^{※4}
- エマージェンシーファーストレスポnder^{※5}
- 潜水士^{※5}

- ※1 別に定める教育職員免許法の所要単位を修得し、各都道府県の教育委員会に申請する必要があります。
- ※2 所定の単位を修得し、申請すると、「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。
- ※3 卒業までに所定の単位を修得する必要があります。卒業後の勤務先で資格取得が必要となった場合に手続きを行います。
- ※4 資格取得に必要な関連の授業を受けることができるので受験に有利になります。なお、資格試験を受験するには大学卒業後4年以上の実務経験が必要です。
- ※5 資格取得に必要な関連の授業を受けることができるので、受験に有利になります。在学中に受験し、資格を得ることができます。

畜産草地科学科

Department of Animal and Grassland Sciences

低コスト・低労力化のもとで、土・植物・家畜の物質循環系を生かして、限られた自給飼料資源をリサイクルさせながら、良質で安全な畜産物の生産に寄与できうる人材の育成を目指します。そのため、南九州地域の温暖な気候に適した肉用家畜の生産と、飼料生産に必要な暖地型植物の生産を主眼とした、家畜とその生産を支える草地の両面からの教育を行います。21世紀の地域と世界に向けて、家畜と草地の両方の視点から考えることのできる人材を育てることを目指しています。



口蹄疫を経験した生の話も聞きながら動物にまつわることが学べる。

畜産草地科学科 4年

岡田 椋太 Ryouta Okada

愛媛県 松山南高校出身

本学科は草地という言葉が付いているように、動物に関係する産業が学べ、畜産関係だけでも多彩です。豚1つ取っても卵子のことからファンを使ったエネルギー開発など、研究分野が多岐に渡り、家畜動物はもちろん自分の好きなものを使った研究もできます。私はネズミを使って繁殖の研究をしています。気温などが繁殖に影響があるかなどを考えていますが、将来的に温暖化が家畜動物の繁殖にどう影響するかまで派生させられると思います。宮崎は口蹄疫を経験しています。その実体験がある人から、当時のことを聞けることは学問的知識だけじゃない貴重な経験になります。入学当初は、動物園で働きたかったんですが、学びを深めるうちに動物に関わる仕事はほかにも沢山あると実感しています。

Admission Policy 入学者受入方針 -求める学生像-

アドミッション・ポリシー

畜産草地科学科では、農学に関する基礎知識、草地・飼料、家畜、資源・環境及び食料・畜産業・農村に関する基礎的・応用的知識・技能、専門分野に関する国際性と課題解決能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

- 資源循環、環境の保全、家畜の福祉などに配慮した持続的な畜産業の構築に対して熱意を持って取り組み、動植物に対する幅広い興味や関心を有し、実験や観察において深く考察する能力を有し、その結果を表現する力、大学での学修の基盤となる幅広い知識や生物、化学に関する基礎学力を有する人
- 学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会の一員として地域・世界に還元することのできる資質を有する人材

Message



新しい畜産の形を創出する!

畜産草地科学科 准教授 佐々木 羊介
Yosuke Sasaki

日々の食事で肉を食べる機会が多いと思いますが、畜産農場ではその食肉を日々生産しています。畜産草地科学科では、畜産のより良い未来を創出するために、多角的なアプローチから教育・研究を行っています。宮崎は全国有数の畜産王国であり、本学科の実習や講義では、家畜や草地に触れ合いながら、生きた知識を学ぶことができます。

畜産は科学の進歩やICT機器の発展に伴い、飼養管理が年々変化してきています。私は生産現場から得られるビッグデータを活用して、効率的にウシやブタを生産する手法や、疾病発生リスクを低減させるための管理方法の確立を目指した研究を行っています。従来の畜産の形を打破し、新しい畜産の形を創出するためには、先入観のない若い世代の力が必須です。畜産の未来を創出するために、何事にも「挑戦」し続ける学生の方々の入学をお待ちしております。

KOKOCHU
ココに
注目!

動物に関わる産業界へ貢献できる 人材の育成(実践教育)!

2018年4月から、畜産草地科学科の3、4年生を対象に、産業動物コンサルタント育成プログラム(ICEプロ)を開講します。家畜生産の拡大と生産性の向上を図り、畜産物の生産加工・流通・販売までをトータルにコンサルタントすることができる人材の育成を目指します。このプログラムでは、家畜飼養管理学、産業動物経営学、畜



産簿記学などに加え、西日本最大級の大学附属農場(住吉フィールド)を拠点とした草地・飼料作物管理、情報処理、家畜審査登録などの様々な実習・演習を行います。さらに、研究機関、畜産関係団体、生産者など、動物に関わる実際の業務の現場において、短期(3年生、2週間程度)、長期(4年生、2-3か月)の体験型の研修を行い、コンサルタントに必要な知識・技能を身につけることができます。



■卒業後の主な進路

公務員、農業関係団体、試験・研究所、飼料・種苗会社、畜産食品加工・流通、畜産業(牧場)、草地畜産コントラクター、緑地・緑化産業、環境アセス・コンサルタント、教員、動物園、大学院進学 他

■取得可能な免許、資格

- 高等学校教諭一種普通免許状(農業、理科)^{※1}
- 学芸員^{※2}
- 食品衛生管理者^{※3}
- 飼料製造管理者^{※3}
- 普及指導員^{※4}
- 家畜人工授精師^{※5}
- 実験動物一級技術者^{※6}
- 食品衛生監視員^{※3}

※1 別に定める教育職員免許法の科目の所要単位を修得し、各都道府県の教育委員会に申請する必要があります。
 ※2 所定の単位を修得し、申請すると、「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。
 ※3 卒業までに所定の単位を修得する必要があります。卒業後の勤務先で資格取得が必要となった場合に手続きを行います。
 ※4 資格取得に必要な関連の授業を受けることができるので受験に有利になります。なお、資格試験を受験するには大学卒業後4年以上の実務経験が必要です。
 ※5 所定の科目の単位を修得し、その他所定の要件を満たした人は卒業後に資格を得ることができます。
 ※6 所定の科目の単位を修得すれば、4年次に受験することができます。学科および実施の両試験に合格した者は、認定登録申請により実験動物一級技術者の資格を得ることができます。

獣医学科

Department of Veterinary Sciences

獣医師国家試験に対応する獣医学教育を基本として、動物の疾患の予防・治療に関わる獣医師、動物と人の共通感染症の防御など人や動物の健康・福祉に貢献する獣医師を養成します。なかでも、南九州の特色である産業動物獣医師の養成に力を入れています。また、平成22年度にはわが国で初めて医学と獣医学が融合した大学院(医学獣医学総合研究科)が設置され、先進的な獣医療を実施する高度獣医師育成コースや国際的に活躍できる研究者育成コースへの進学が可能です。

犬や牛に触れながら授業を受けられる醍醐味は宮崎だからこそ。

獣医学科 5年

園田万也加 Mayaka Sonoda

大阪府 大阪北野高校出身

畜産県にあり自然豊かな環境にキャンパスがあるため、大学病院があるだけでなく牧場も近くに備えています。そのため牛や豚、犬などの動物に多く触れながら、学べる環境が多いと思います。また素晴らしい教授陣の下で学べるのも、刺激になります。私が所属する研究室だけでも、消化器系の手術を得意とする先生や、その手術を支える麻酔科の先生など、将来こうなりたいと思わせる素晴らしい技術を持ちます。1クラス30人と少人数で学べるため、クラス全員と仲良くなれるのも良いです。宮崎はチキン南蛮や宮崎牛など美味しいものが多いのも魅力です。

大動物にも魅力を感じましたが、当初やりたかった小動物の臨床医を目指したいです。



Admission Policy 入学者受入方針 -求める学生像-

アドミッション・ポリシー

獣医学科では、農学に関する基礎知識、獣医専門知識、獣医的倫理観、獣医的応用・実践・開拓力、地域・国際社会への貢献能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

●大学での学修の基盤となる幅広い知識や理科、数学、語学に関する基礎学力を持ち、自然科学に対する幅広い興味や関心を有し、ヒトと動物の健康ならびに福祉の向上に必要な高度な専門知識の修得に対して主体的に取り組むことができる人材

Message



『地の利を活かした教育・研究・社会貢献』

獣医学科 講師 脇谷 晶一
Shoichi Wakitani

私が所属する獣医解剖学研究室では、地域貢献活動として主に宮崎県内で飼われている牛の病理解剖検査を行っています。この検査では、病気やケガ等が治る見込みのない牛を対象として、病気やケガの程度は実際にどうなのか、他に併発している病気等はないのかを調べます。品種は黒毛和種が最も多く、症例としては肺炎が特に子牛に多く発生しています。現在は年間100頭程度の検査依頼があり、検体は学生の実習にも活用されています。全国の獣医系大学の中でこれだけ多くの牛の症例に触れ合う機会があるのは、おそらく宮崎大学だけではないでしょうか。また同時に、家畜の病気に対する防御機構(免疫系)に関する研究を行っています。この研究を通じて牛の病気に対する抵抗力が高まり、病理解剖検査の対象となる牛が減ることを切に願っています。

KOKOCHU
ココに
注目!

「宮崎で学ぶ実践教育 -Miyazaki+(プラス)連携教育で 獣医師の育成-」

獣医学教育モデル・コア・カリキュラムが制定され、わが国の獣医学教育が大きく変わりつつあります。その中で宮崎大学が培ってきた獣医師育成の土台は変わることなく、実践的な教育を主体とした、自主的に学ぶ素地を身に付けた学生を育てることです。附属動物病院での診療に参加し症例から学ぶ臨床教育(昨年度はイルカのCT検査や手術まで!)や人獣共通感染症教育・研究プロジェクトを軸にした感染症/防疫に関するユニークな教育、基礎～応用に段階的に進む充実したカリキュラム・マップ、南九州に根ざした“触れる”産業動物教育、など



小動物臨床教育風景
(附属動物病院における伴侶動物臨床実習)



イルカCTの撮影風景(イルカ生体でのCT検査の様子)

豊富な教育コンテンツを有する宮崎大学で獣医師への一步を踏み出してみませんか。

また、東京大学、大阪府立大学との連携教育により講師派遣および遠隔講義を実施しており、これまでに感染症学、薬理学、臨床などの各分野で強みのある専門教育を相互に提供しています。この連携教育での講義は都市型と地方型の異なる問題解決能力を学び、それぞれに還元する有意義な教育材料となっています。

■卒業後の主な進路

伴侶動物の臨床(イヌ、ネコなどの獣医師)、産業動物の臨床(ウシ、ブタなどの獣医師)、医薬品会社(営業職、研究職など)、飼料会社、公務員(公衆衛生など)、大学院進学 他

※多くの場合、獣医師免許を取得することを条件に、面接などの採用試験を受験し、採用の可否が決定されます。

■取得可能な免許、資格

- 獣医師(国家試験受験資格)※1
- 学芸員※2
- 食品衛生管理者※3
- 食品衛生監視員※3

※1 所定科目の単位を取得すると、獣医師国家試験の受験資格を得ることができます。

※2 所定の単位を修得し、申請すると「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。

※3 卒業までに所定の単位を修得する必要があります。卒業後の勤務先で資格取得が必要となった場合に手続きを行います。